

# 多能工化(マルチスキル)の進め方

## 生産性向上の登竜門! 作業者の能力を開発する多能工化

### 研修のねらい

生産現場では納期変更や飛び込み受注の要求に対応した柔軟な生産体制の構築が求められています。生産工程も少品種大量生産から多品種少量生産、変種変量生産、そしてセル生産方式へと変化しています。また、近年では働き方改革への対応として、業務の平準化も急務になっています。他方、多くの企業で熟練技術者の持つスキルやノウハウの技能伝承の遅れが問題となっています。これら全ての課題に対する切り札が「多能工化」です。

本研修では、多能工の考え方や効果を理解した上で、多能工化を進めるための作業標準や技能の可視化の仕方、教育訓練の進め方のポイントについて、演習を交えて学びます。また、自社の現状把握を行い、多能工化計画の立案に取り組みます。

### 研修の特徴

- ☑ 多能工化の意義と目的を理解し、その取り組み方の手順や留意点を学びます。
- ☑ 現場で使えるスキルマップのつくり方を学びます。
- ☑ 多能工化の実行から定着までを見据えた実行計画を立案します。

### 研修期間

2026年 9/28(月)~30(水)  
(3日間・21時間)

### 対象者

### 製造業の管理者、 新任管理者

- 納期変更や飛び込み受注に対応したい方
- セル生産方式などを検討されている方
- 業務の平準化を進めたい方
- 技能伝承に課題を感じる方

定員 30名

受講料 32,000円(税込)

※受講料は変更になる場合があります。

### 会場

### 中小企業大学校 三条校

新潟県三条市上野原570

月日	時間	科目	内容
9/28 月	9:20~9:30	オリエンテーション	
	9:30~17:30 (昼休憩 12:00~13:00)	多能工化の意義と多能工化が求められる背景	多能工化の取組むために重要な多能工化の目的や意義を学びます。 ● 多能工化の背景 ● 多能工化の目的(企業の社会的責任) ● 多能工化が求められる背景(労働人口の減少、生産形態の変化、セル生産方式など)
9/29 火	9:30~17:30 (昼休憩 12:00~13:00)	多能工化の実践ステップ(現状把握)	多能工化に取り組む前段階として、各工程のフローを作成し、業務の棚卸しを行い、従業員一人ひとりの持っているスキルを一覧化し、見える化をすすめます。 ● 全体計画表の作成 ● プロセスフロー(工程)の作成 ● 業務の棚卸 ● スキルマップの作成
	9:30~17:30 (昼休憩 12:00~13:00)	教育訓練を始める前に	教育訓練を始める前に知っておくべきことを確認します。更に教育訓練を効率的にすすめるために必要な5S活動や作業標準書の作成方法を学びます。 ● 管理者が知っておくべきこと ● 多能工化のメリット・デメリット ● 5S活動の必要性(演習) ● 作業標準書の考え方と作り方
9/30 水	9:30~17:30 (昼休憩 12:00~13:00)	多能工化の実践ステップ(教育訓練)	教育訓練の基本となる業務量平準化の方法を学び、教育訓練の実施に繋がります。 ● 業務量平準化の検討 ● 教育訓練表の作成 ● 教育訓練の実施(Off-JT、OJT) ● 教育訓練記録表の作成
	9:30~17:30 (昼休憩 12:00~13:00)	多能工化の実践ステップ(維持管理)	多能工化を継続するための方法を検討します。 ● 教育効果の検証 ● 維持管理のポイント
	17:30~17:40	多能工化計画の作成と発表	● 自社の多能工化実施計画の立案 ● 自社での実行・運用に向けた課題の洗い出しと対策案の検討等 ● 計画の発表
	17:30~17:40	修了証書の授与	

※カリキュラムは都合により変更する場合がございますので予めご了承ください。  
※お申し込み方法、お問い合わせ先等は裏面をご覧ください。

### 講師紹介(敬称略)



ふくだ5S実践舎

代表

福田 隆(ふくだ たかし)

国立小山工業高等専門学校工業化学科卒業。外資系大手製薬会社にて、生産技術・品質管理などに携わりながら現場改善を実践し、安全性・品質・生産性向上に大きな成果を上げた。日本のモノづくりを支える多くの中小企業に5Sを広めるべく、2009年にふくだ5S実践舎を設立。製造業・サービス業・教育機関など多業種にわたって、現場改善・生産管理等の分野で指導実績があるほか、セミナー講師としても活躍している。

